「神を愛する人に とって、子としての 身分と友情とは分か つことのできない現 実です」

聖ホセマリアの説教集『神の 朋友』の紹介文の中で、福者 アルバロは本書のタイトルと なった「友情」について説明 しています。

2020/03/19

偉大な召し出しにふさわしい振舞を しよう、と決意したキリスト者の生 活は、主のことばを反映するものと なるでしょう。「これからもう私は あなたたちをしもべとは呼ばない。 しもべは主人のしていることを知ら ないからである。私は父から聞いた ことをみな知らせたから、あなたた ちを友人と呼ぶ| (ヨハネ 15, 15)。神の御旨を果たすために素直 に協力するなら、思いがけなくすば らしい展望がひらけてきます。エス クリバー師は次の美しい逆説を喜ん で強調しているのです。「愛ゆえに 神の奴隷になるほどすばらしいこと はない。その瞬間に隷属状態から解 放され、神の朋友、神の子になるこ とができるからです」(『自由は神 の恵み』 35)。

私たちは神の子、「神の朋友」である。これこそエスクリバー・デ・バラゲル師が自分のもとに近づいてきた人々の心に刻みつけようと望んだ

真理です。師の説教は、たえず人々 の心に訴え、「進退きわまったとき のみ神の助けを求める」(『祈りの 生活』 247) ことのないようにする ためでした。イエス・キリストは真 の神であり真の人間、私たちの兄で あり友です。親しく接する努力をす るなら、「神の友となる幸福にあず か」(『聖性を目指して』 300) る ことができる。できる限りの努力を 傾けてベツレヘムからカルワリオま で主につき従い、主の喜びと苦しみ を分かち合うならば、親しい語らい を続けることができるのです。「主 の杯を飲み、神の友となった」(聖 ペトロと聖パウロの祭日、教会の祈 り、第二朗読の答唱詩篇)と教会の 祈りに歌うように。

神を愛する人にとって、子としての 身分と友情とは分かつことのできな い現実です。神には子として近づ き、生活をうるおす信頼にみちた語 り合いを続ける。「キリスト者は神 の愛に酔っている」(『神をみるであろう』183)からです。同じように、神の子としての自分を自覚すると、豊かな内的生活は実際の使徒職という形になってあらわれる。神の子があれば「私たちは与立なの親しさがもれば「私たちはに立人をいたすに、「神の賜を用いて、「ずかれるように」258)ることができるからです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/kami-wo-ai-suru-hito/ (2025/12/10)